

麻布大学ティーチング・ポートフォリオ

所属 食品生命科学科

職階 准教授

氏名 小林 直樹

麻布大学では、教育研究活動その他大学の諸活動を恒常的に自己点検・評価し、その結果を検証して改善に結び付けることにより、教育の質保証を行う観点から、各教員が『ティーチング・ポートフォリオ』を作成しています。ティーチング・ポートフォリオの構成及び更新サイクルは以下のとおりです。

1. 教育の責任・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
2. 教育の理念・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
3. 教育の方法・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年
4. 教育の方法の改善・向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組・・・ 毎年
6. 学生の学修成果向上を図る取組・・・・・・・・・・ 毎年
7. 指導力向上のための取組・・・・・・・・・・ 3年
8. 今後の目標・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3年

1. 教育の責任

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

生命・環境科学部 食品生命科学科および環境保健科学専攻に所属し、獣医学部総合科学部門を兼任している。専門である食の安全分野を中心とする教育および研究を行っている。主たる教育活動として、食の安全にかかわる科目（食品安全学、食のレギュラトリーサイエンス、HACCP 管理論）とともに基礎科目の教育（基礎化学、生化学の講義・実習）を担当している。また、研究室生への卒業論文及び博士論文の指導、環境保健科学専攻大学院生の修士論文の指導も行っている。

科目名	学科・専攻	単位種別	配当年次	受講者数(単位:人)
基礎化学	食品生命科学科	必修	1	50
基礎化学	環境科学科	必修	1	80
基礎化学実習	食品生命科学科	必修	1	50
基礎化学実習	環境科学科	必修	1	80
生化学	食品生命科学科	必修	3	50
生化学実習	食品生命科学科	選択	4	50
食品開発 PBL 実習（分担）	食品生命科学科	選択	2	20
食品安全学	食品生命科学科	必修	3	40
食のレギュラトリーサイエンス	食品生命科学科	選択	4	50
HACCP 管理論（分担）	食品生命科学科	選択	4	60
卒業研究	食品生命科学科	選択	3	15
食品健康科学特論	環境保健科学専攻（博士前期課程）	必修	1	2
食品健康科学特別演習Ⅰ	環境保健科学専攻（博士前期課程）	必修	1	1
食品健康科学特別実験Ⅰ	環境保健科学専攻（博士前期課程）	必修	1	1
食品健康科学特別演習Ⅱ	環境保健科学専攻（博士前期課程）	必修	2	1
食品健康科学特別実験Ⅱ	環境保健科学専攻（博士前期課程）	必修	2	1
食品健康科学特別実験Ⅲ	環境保健科学専攻（博士後期課程）	必修	3	1

2. 教育の理念

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

学生には多様な視点を持ち、常に自分を変化させ、成長し続ける人物になってもらいたい。社会の変化はますます早く、激しくなっており、社会に出てからは大学のころには想定しえない対応に迫られることもあると考える。また、思い描いている将来とは違った世界が広がる可能性もある。そのような場合に柔軟に対応するためにも、学生が興味を持って進学してきた専門分野の知識を深く学ぶとともに、専門分野にとらわれない幅広い分野の知識を学ぶことも重要だと考える。一見関わりのない知識が思いもよらないところでつながり、役立つことも多く、別分野だと思っていた分野が実は密接に関連していることもある。学生には偏った知識だけをもつことのないように教育し、柔軟な視点を持たせたい。

実際、私は現在では食の安全分野を専門として教育、研究を行っているものの、大学では食の安全に関わる学問を全く専攻していなかった。そもそも食品分野でもなく、分子生物学という学問をベースに魚やマウスといった動物の遺伝子解析を行ってきた。それが、いつしか研究の対象が動物から食中毒菌に変わり、食の安全を支える遺伝子レベルの検査や研究を行うようになり、現在の立場となった。そのため、研究室で学生とともに進める研究も、食の安全をテーマに、微生物学的手法、理化学的手法、分子生物学的手法などを用いて多面的に行うようにしており、様々な視点で議論ができる学生を育てたいと思っている。

様々な分野に興味を持ち、新しい知識を吸収することを楽しむことのできる人物となれば、自ら考えて取り組み、常に成長することができると思う。しかし、多様な分野にまたがる教育は個人の取り組みだけでは成り立たない場合もあり、多くの教員、職員と協力し、学生がより良く学べる環境を作ることも重要と考える。

3. 教育の方法

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

教育の方針として、「興味を持たせる」、「知識を定着させる」、「考えさせる」の三つを軸とし、出来るだけコミュニケーションをとるよう心掛けて進めている。

・「興味を持たせる」

私は基礎的な科目を多く担当しているが、学生が自ら興味をもって楽しく学習できるように、身の回りのことを題材にしたり、専門科目、卒業研究、社会での必要性などを絡めたり、応用を意識した説明を心がけている。興味を持たせるとともに、一見関係ないように思えるものも様々な分野につながることを意識させるようにしたいと考えている。

・「知識を定着させる」

講義科目では毎回の授業において、復習テストを行って解説をすることで、繰り返し学ばせる場を作っている。また、実習においても講義で示した内容に関わる部分は丁寧に取り上げて強調し、レポートについても提出後に解説を行って復習する場を設けている。また、実習は大人数のグループになりがちなところをできる限り少人数のグループで実施できるよう工夫し、全員で考え、個々が責任をもって進められる形式を心掛けている。

・「考えさせる」

授業は事柄を覚えさせることではなく、考え方、解き方を理解させることを念頭に行っている。また卒論研究の指導においては、テーマから考えさせ、研究の土台から最後までを個人で把握させ、筋道立て考えさせることを意識して指導している。

(1) アクティブ・ラーニングについての取組

有

HACCP 管理論において、小グループに分かれてのディスカッションとプレゼンテーションを行うグループワークを行っている。また、食のレギュラトリーサイエンスにおいて、グループごとにテーマを与えて調査、発表を行うグループワークを行っている。

(2) ICTの教育活用

有

AzaMoodle、Google forms、Google Drive などを通して、資料の提示、課題、小テスト等を行っている。オンラインを活用した特別講師の講演なども実施している。また、研究室指導では学生との情報のやり取りにGoogle chat等を活用している。

4. 教育の方法の改善・向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 教育（授業及び実習等）の創意工夫

B

講義科目においては毎年スライドの改善を図っている。重要キーワードを空欄にした形でのスライドのハンドアウトを作成して授業資料として提示し、授業受講時の入力作業用資料として、また復習時の練習問題として使用できるようにしている。

(2) 学生の理解度の把握

B

講義科目においては毎回復習問題の小テストを行い、採点をしている。基礎化学においては中間テストを行うことで、学生の理解度の把握に努めている。理解度が低い学生にはチューター指導との連動した課題を課し、リメディアルの受講を勧めている。実習科目においては、レポート提出後に解説を行い、その上で再提出させ、再評価を行っている。

(3) 学生の自学自習を促す工夫

B

授業スライドのキーワードを空欄にした資料や、テスト対策用の穴埋めシートなどを配布して自学自習を促している。実習においては、事前に実習内容を動画で解説するとともに、実習後に解説の動画も提供している。また、実習書には予習問題および実験結果に対する考察課題を掲載している。

(4) 学生とのコミュニケーション

B

講義・実習後に学生から質問を受けた場合には、丁寧に対応している。また、実習においては、学生の作業中には各班を回り、実習内容のことに限らず学生に話しかけ、質問などをしやすい雰囲気づくりを心掛けている。

(5) 双方向授業への工夫

B

発表を行うアクティブラーニングを取り入れている。また、実習では質問をしやすい雰囲気づくりを心掛けた。

5. 学生の授業評価アンケート結果に基づく改善・向上の取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 授業評価アンケート結果の授業への反映

良い評価を受けた内容については、引き続き実施した。例えば、スライドが見やすかったとのコメントを得たため、引き続き改善に努め、分かりやすいスライド・資料作りを心掛けた。一方で、小テストについては難しいという学生がいる一方で簡単すぎるとの評価もあったため、問題を一部見直した。

(2) (1)の結果による改善・向上の具体的な成果又は課題

スライドや資料など、これまで評価の悪くなかった部分については、概ね良好な反応だったと感じた。小テストについては、やはり学生ごとに反応が異なるようであり、引き続き改善が必要と思われた。

(3) (2)を踏まえた次年度の取組

好評な内容については引き続きブラッシュアップに努める。学生の学力にばらつきが大きいことを踏まえ、小テストだけでなく補助問題や自由課題などいくつかレベル別の資料の作成を検討したい。

6. 学生の学修成果向上を図る取組

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

(1) 現在までの学生の成績向上に資する取組及びその成果並びに今後予定している取組

次の授業において前回の復習テストを行うことで、授業時間外での復習を促し、またその解説を丁寧に行うことで、前の週の授業の振り返りを行い、知識の定着率の上昇を試みている。また、一部科目はチューター連携科目として実施した。実習においてはレポートの解説を行ったうえで学生に修正させて再提出を行わせることで理解度の向上を試みている。

(2) (1) の取組を通じて改善・向上が図られた学生の学修成果並びに当該取組 に対して得られた学生及び第三者からの評価又はフィードバック

授業アンケートにおいて、復習テスト及びその解説についてよい評価があったが、一方で解説が長すぎるなどの指摘もあった。実習レポートの解説についてもおおむねよい評価だった。

7. 指導力向上のための取組（FD研修参加等）

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2025年2月

すべての研修に参加した。

8. 今後の目標

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

- ・アクティブラーニングにおけるテーマと実施方法を調整する。
- ・今後も学生からの意見を吸い上げ、できる限り応えるように心がける。授業評価アンケートの結果を意識する。
- ・カリキュラムの刷新にあたり、更なる教育の質の向上を目指す。他の教員が担当する科目と連動を考える。
- ・研究室間での共同研究などを進め、卒論研究のテーマについても多様で長期にわたる内容を立ち上げ、一つの知識が多様な分野に関わること、多面的な内容が総合的に応用されることをイメージさせたい。

9. ティーチング・ポートフォリオを作成する際に活用した根拠資料

対象期間：2024年4月～2027年3月

更新年月：2024年2月

シラバス、授業資料